桜花学園大学・名古屋短期大学

図書館だより

No.69
2020.1

2019年度 学生選書ツアー

2019年度は、6月と7月に各1回学生選書ツアーを開催することができました。

学生選書ツアーとは、学生が図書館に置いてほしい図書を直接書店で選ぶ企画です。自分が選んだ図書が「貸出中」になる楽しみなどがあります。

今号の図書館だよりは、学生選書ツアーおよびゼミの目的で参加くださった方々の中から選んだ「学生お薦めの本」の紹介です。

2019年度 学生選書ツアー ～“いのち”をテーマに本を選ぶ～

桜花学園大学 保育学部 国際教養こども学科　寺田 恭子教授

私は、保育・教育者を目指す学生たちが、子ども一人ひとりの個性を尊重し、その子らしく健やかに成長していくことの大切さを自覚して欲しいと常に思っています。そのための学びの入り口として、桜花学園大学保育学部保育学科2年生ゼミの学びのキーワードを“いのち”と決めています。“いのち”という最も尊くかけがえのないものを通して、一人ひとりが大切な存在であるということを学びの根幹に位置付けながら様々な課題に取り組んでいます。

今年は、図書館が企画してくださった学生選書ツアーにゼミとして参加することができました。学生たちは、自分の好きな本が自由に選べて、それが本学図書館に入るということを知り、少々の責任感（笑）と欲しい本に出会えるかもしれないという喜びでいっぱいだったようです。真夏の暑い朝、栄の丸善名古屋本店前には集合時間よりかなり早めに多くの学生が集まっていました。今回、この学生選書ツアーでは数冊選ぶ中の２冊は“いのち”に繋がっている本を選ぶことを約束していました。広い店内をグルグルと何度も回りながら学生たちが手に取った本は、彼女たちの視点ならではの、ユニークなものがたくさんありました。私もぜひ読んでみたいと思うものも多くありました。以下は学生たちが選んだ“いのち”に関連する本であり、手書きのPOPです。

このような活動を通して、友達が選ぶ本にびっくりしたり、感心したり、知らなかった本を通して読書の楽しさを再認識したり…。本は私たちの心を豊かにするだけではなく、感動、共感した心が繋がることによって大きなムーブメントを起こす生き物に変身します。皆さん、図書館に通いましょう。学生たちのPOPもぜひ読んでくださいね。

学生の手書きPOP

桜花学園大学 保育学部保育学科2年
梶浦 美里

桜花学園大学 保育学部保育学科2年
安面 美咲

学生お薦めの本

『洋食小川』

小川糸 著〈幻冬舎〉

桜花学園大学 保育学部保育学科2年 成瀬 佑香

小川糸さんと、ご主人、そして犬のゆりねの優しくてあたたかい暮らしを綴った、エッセイというより日記に近いお話です。日々の暮らしを丁寧に生きている感じが心地よく、読んでいると心がぽかぽかしてくる本です。

『おじいちゃんのごくらくごくらく』

西本鶏介 作〈鈴木出版〉

桜花学園大学 保育学部保育学科2年 山田 愛純

この本は、おじいちゃんと孫の日常生活の様子や２人の絆について書かれているお話です。命に関する絵本ですが、表情豊かなイラストで子どもでも理解しやすいと思います。

いつかは訪れるであろう別れ。悲しいけれど、一緒に過ごした楽しい思い出が前を向けるということを感じることができます。そして大人にも読んでほしい一冊です。

『むらさきのスカートの女』

今村夏子 著〈朝日新聞出版〉

桜花学園大学 保育学部保育学科2年 濱本 実佐

「むらさきのスカートの女」と友達になりたい

自称「黄色いカーディガンの女」は自分と同じ職場で彼女が働きだすよう誘導する。

☆面白いセリフの中に小さな違和感があります。

☆見つけるたびに主人公の印象が変わっていきます。

☆最後の一行で、本のタイトルを変えたくなります。

芥川賞受賞作 !!

Library News

わたしたちが選んだ本たち ～現代教養学科“読書のススメ”プロジェクト～

名古屋短期大学 現代教養学科　茶谷 淳一教授

1 プロジェクトの目的

現代教養学科ではさまざまな活動を通して、社会人基礎力と「読む、聴く、話す、書く」力を養成することを目的として学習しています。その一環として、1年茶谷ゼミは自分たちの選んだ本を広く学内のみなさんに読んでいただくための活動に取り組んでいます。

そして、今年の大学祭の展示として「私たちの選んだ本」を紹介しました。紹介文を読み、ひとりでも多くの方が私たちの選んだ本を図書館で手に取っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

2 私たちの活動

❶なぜ学生が本を読まなくなったのかを話し合いました。

❷図書館の学生選書ツアーに参加し、丸善ジュンク堂名古屋支店で本を選びました。

❸紹介のPOPとともに、図書館の「学生選書コーナー」に配架していただきました。

学生お薦めの本

『死化粧』

渡辺淳一 著〈KADOKAWA〉

名古屋短期大学 現代教養学科1年 高橋 美唯

この本は「死化粧」「訪れ」「ダブルハート」の短編三作が入っています。一作品目の「死化粧」は医者の作者から見た母の死への考えと親戚たちから見た母の死の考えの違いや、葬式は死んだ人の為ではなく、生きている人の為に行うものだという作者の考え、母の死体を病理解剖に提出し、頭蓋骨から脳を取り出している時の医者の自分の気持ちと、息子としての気持ちの変わりようがとてもリアルに書かれていました。二作品目の「訪れ」はとある癌患者が自分の死が近づくにつれて恐怖を覚え、日に日に人が変わったかのように豹変していく様子を医者の作者がどう思っていたのか、その患者にもう癌は治らないことを悟られないようにしていたのは、果たしてその患者にとって良いことだったのか、逆に悪いことであったのか、作者と周りの人の考えが書かれていました。三作品目の「ダブルハート」は、恢復することの無い患者の心臓を提供して欲しいと、主治医がその患者の家族に説得をする時の思いと、患者の家族にとっての心臓と、医者たちにとっての患者の心臓への考えの違いについて書かれていました。

感想

まずこの本は医者であった渡辺淳一さんの経験をもとに書かれた本なので、専門的な難しい言葉が出てきたり、医者としての考えが出てくるので、作者の気持ちがとてもリアルに感じられました。「死化粧」では患者の家族に対する思いは意外と冷たかったりして、死に対しても仕方がないと言う意見が多かったです。作者の母が癌になった時も、このまま死んでいくのは仕方がないと考えていた作者でしたが、最後にはやはり家族として母の死を受け止めきれず、悲しみにくれる所はとても印象に残っています。死に対しての考えが冷たかったのも精神的に病まないように自分を守っていたのではないかと私は思いました。「ダブルハート」ではドナー側の思いを医者達は全く考えておらずただもう生きていけないのだから心臓を提供して欲しいと考えていて、医師にとってはただのポンプにしか思えなくても、家族にとってはその人が生きていた証でもあり、それは家族にしか分からないと思いました。医者は時には残酷なことをしなくてはならない大変な仕事なのだと改めて思いました。

この本のイチオシのところ

この本は医者の本性を知ることができたり、死に対して色んな目線から見ることができます。医者であった作者のこれまでの人生で死と向き合ってどう思ったのか、どういう行動をとっていたのかを読んで、死とはどういうものなのか改めて考えられるのではないかと思います。

2020年1月～2020年3月 開館日程

1

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1日（水）～4日（土）：休館【冬季休業】
18日（土）：休館【館内整理日】
31日（金）：休館【入試】

2

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

1日（土）：休館【入試】
10日（月）：休館【入試】
17日（月）～22日（土）：休館【蔵書点検】
29日（土）：休館【入試】

3

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

16日（月）：〈開館時間〉9:00～12:00 名古屋短期大学学位記授与式
19日（木）：〈開館時間〉9:00～12:00 桜花学園大学学位記授与式
21日（土）：休館【文化の日振替の振替】　23日（月）～25日（水）：開館【春季休業】
26日（木）～31日（火）：休館【春季休業】

開館時間		
授業期	月、火、木、金曜日	8:40～18:30
	水曜日	8:40～17:30
	土曜日	8:40～16:00
休業期	月曜日～金曜日	9:00～16:50
	土曜日	9:00～13:00
休館日（赤字）	日曜日、祝日、館内整理日、冬、春季休業中の一定期間等	

図書館内貸出用ブランケット（ひざ掛け）

寒さ対策として、暖かな環境で勉学に励むことができるよう図書館内貸出用ブランケットを用意しました！希望者は、受付カウンターまでお越しください。

Library News